

# 行雲流水

No.136 令和3年12月17日発行

それぞれの得意を伸ばす

校長 寒河江 正人

人には、それぞれに**得意なことがある**、  
その人の置かれた立場や環境のなかで  
その役割に応じて、その力を伸ばしてゆく。

それと同時に、  
人には、**苦手なこともあるもの**だ。  
それが、あたりまえ、自然なこと。

**知力がある**人は、  
物事を論理的に考えられるから、答えを出すことに迷わないかもしれない。  
けれど、複雑で微妙な人の気持ちがよくわからないことがあるかもしれない。

**大らかで、物事に執着しない**人は、  
細かいことをいちいち気にせず、心配したり不安がったりしないかもしれない。  
けれど、危機や困難を俊敏に感じ取ることができにくいかもしれない。

**勇気がある**人は、  
危機や困難が訪れた時に、恐れずまっすぐに闘えるのかもしれない。  
けれど、思わぬ間違った方向へと進んでしまうことがあるかもしれない。

生徒諸君、自分一人で、  
**すべてのことをしなければならぬと焦り、苦しみ**必要は、ないのだよ。

**知・仁・勇のすべてを**  
一人で持とうとしなくてもいいのだよ。  
そんなことは、不自然なことだ。

だからこそ、  
**違う力を持つ人と、お互い知恵を出し合い、力を合わせ、**  
**未来の創造に向かって、共に歩む**ということに意味があるのだよ。